前田町町内会会報　第４１８号　平成３１年２月３日（日）発行

# 会報　まえだ　418

発行者　会長　高嶋威男
編集　竹内(と)
http://maedacho.jp/

## 環境家計簿（黄色の用紙「省エネチェックシート」）の提出

昨年 12 月に全世帯に配布しました**環境家計簿(省エネチェックシート)**を 2 月末までに組長さんに提出してください。組長さんは 3 月の組長会に持参してください。

今回は 12 月、1 月、2 月の使用量を記入していただくようになっています。今年の冬は、エルニーニョ現象の影響もあり、暖冬と言われておりました。しかし、時々来る大陸からの寒気は身に沁みます。皆様のご家庭におきましては前年よりは減少しているのでしょうか？それとも増えていますか？日常の「省エネ」の取組が分かります。使用料量は毎月の検針票から実績（今年度、前年度）を記入して下さい。　　（川上地域エコ活動委員会）

## 「川上の百年史」発刊のお知らせ

この度、旧川上地区の 100 年の歴史を編纂し一冊の記念誌にまとめることができました。旧川上地区とは、平戸平和台、平戸、東戸塚、川上、柏尾、舞岡の現在の 6 連合から成り立っていました。「旧川上小学校の卒業生が元気なうちに旧川上地区の歴史を残したい」とうい素朴な発想から、6 連合町内会の協力で編纂委員会が約 2 年の歳月を掛けて記念誌としてまとめることが出来ました。記念誌は 160 頁に及ぶボリュームとなり、今回この記念誌を希望者に販売することになりました。希望者は別紙「回覧」に必要事項を記入して下さい。

（「川上の百年史」編纂委員会）

## 今年も「冬の体験キャンプ」で下川町に行ってきました

今年で 7 年目になります、冬の体験キャンプは 1 月 12 日（土）～14 日（祝）の 3 日間、北海道下川町に行ってまいりました。例年に比べ、雪の量は少なかったですが、幸い天気に恵まれ、連日マイナス 23℃を下回り、子ども達は、十分にマイナス 20℃の世界での体験を楽しんできました。

なお、体験キャンプの報告は、2 月 10 日（日）13 時 30 分から戸塚にある、男女共同参画センター横浜（フォーラム）で行います。同時に、環境講演会「はちどりのひとしずく！」も開催されます。申し込みまだの方は会館事務所にご連絡ください。

（川上地区体験キャンプ実行委員会）

## 食廃油　回収実績報告

| 12 月実績 | 平成 30 年度累計 |
|---|---|
| 20Ｌ | 225Ｌ |

廃油の回収は町内会会館前に回収ボックスを常設しています。廃油はペットボトルに入れてそのままボックスに入れていただくだけでＯＫです。

（川上地域エコ活動委員会）

## 会務報告　会長　　※=前田町内会館

1 月 11 日（金）12:30～ 相和会定例会、新年会
1 月 12 日（土）～14 日（月・祝）冬の体験キャンプ（下川町）
1 月 26 日（土）13：00～　川上地区連合町内会広報部会
1 月 26 日（土）14：00～　川上地区連合町内会役員会
1 月 27 日（日）15：00～　役員会（※）
1 月 28 日（月）14：30～　秋葉中ファンド運営委員会
2 月 3 日（日）12：30～　役員部長会（※）
2 月 3 日（日）14：00～　組長会（※）

## 今後の予定　会長　　※=前田町内会館

2 月 5 日（火）10：00～　消火器セット設置立ち合い
2 月 10 日（日）10：30～　環境講演会＆体験報告会
（男女共同参画センター横浜）
※講演会は 13：30 スタートです
2 月 11 日（月）13:30～　相和会定例会、健康体操
2 月 12 日（火）9：30～　川上小懇話会
2 月 12 日（火）10：45～　川上小キッズクラブ評議会
2 月 15 日（金）15：30～　秋葉小中合同懇話会
2 月 15 日（金）16：50～　秋葉小キッズクラブ評議会
2 月 15 日（金）～17 日（日）
下川町アイスキャンドルミュージアム参加ツアー
2 月 23 日（土）14：00～　川上地区連合町内会役員会
2 月 24 日（日）14：00～　防災委員会（※）
2 月 24 日（日）15：00～　役員会（※）
3 月 3 日（日）12：30～　役員部長会（※）
3 月 3 日（日）14：00～　組長会（※）
3 月 11 日（月）13:30～　相和会定例会、健康体操

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

## 前田町物語（６）米作りの話

秋になると田んぼから刈り取った稲を「かけ干」にかけて、天日でよく乾燥させて、「せんばこき」で穂から穀粒をとります。

そして夕方から暗いランプの下で籾摺（もみずり）をします。この籾摺機は重いので三人くらいでまわすのです。

今度は唐箕（とうみ）にかけ米と籾がらとに吹き分けます。そして万石通しで米と籾がらのついたものをふるい分けます。そして籾がらのついているものは、もう一度籾摺にかけ、籾がなくなるまでくりかえします。

そして万石通りきれいになった米をもう一度唐箕にかけて、良い米と「しいな」にわけます。

この良い米を、俵に一斗升で四斗入れます。一斗が約四貫ですから、中身が十六貫、それに俵と桟俵ポッチが約一貫目（3.75kg）ですから、一俵は十七貫四百匁あれば検査は合格です。

米俵を米倉に入れます。米倉のない家では、母屋に積み重ねるのです。

こうして、作業の遅くなった日は、一番鶏の鳴く（午前三時ごろか）時が度々ありました。それからお風呂に入って、ざっと汚れを落として、床に入り、二、三時間眠って目を覚まし、朝飯を食べて野良仕事に精を出しました。

今のようにテレビがあるわけじゃなし、なんの楽しみもないので、ただただ働くのが生き甲斐であり喜びでした。

特に米作りは、歌の文句にもあるように、「米という字を分析すると、八十八度も手がかかる」といわれ、大変な仕事でした。

だから昔の人は一粒のお米ももったいない。米を粗末にすると目がつぶれると言って、たいせつにしたものでした。食べ残すことなど決して許されませんでした。

編集注：昭和六十年頃会報に連載され、昭和六十一年十月に前田町町内会文化部がまとめた「前田町物語」を紙面に余裕のある時に再掲しています。

「会報まえだ」に関するご連絡は下記までどうぞ。

ｐｒ＠ｍａｅｄａｃｈｏ．ｊｐ　竹内

町内会ＨＰ　http://maedacho.jp/

※町内会のホームページでは、これまでの町内会の活動や町内会館の利用について、入会・退会の手続きなどを確認いただけます